

展示解説員の声

なつ 昔懐かしい紙芝居

博物館では、毎週日曜日と祝日の午前と午後の2回、紙芝居を行っています。2階歴史展示室にある、昭和30年代の子どもたちが遊んでいた広場を再現した「時代の広場」で、当時の紙芝居屋さんのように自転車を使った実演です。日本や世界の昔話、動物や昆虫の物語など毎回2本ずつ、いろいろな分野のお話をしています。子どもさんだけでなく大人の方も昔懐かしい気持ちで楽しんでいただくことができます。ぜひ観にいらしてください。(東)



博物館講座のお知らせ

2/15 日曜日 水晶と鉱物を観察しよう **地質**

顕微鏡で小さな鉱物を観察し、美しくふしぎな鉱物の世界にふれます。



時間	10:00~12:00
対象	小学校高学年以上
場所	研修室1
定員	30名
申込期間	1月18日(日)~2月1日(日)

2/21 土曜日 たねの模型を作って飛ばしてみよう **植物**

植物のたねのつくりを学習し、飛ぶたねの模型を作ります。



時間	10:00~12:00
対象	幼・小・中・高・一般
場所	研修室2
定員	25名
申込期間	1月3日(土)~2月7日(土)

特別展 「文化財」を守り伝える力 関連イベント

- **1月17日(土)** 博物館講座「考古学と地震」
10:30~12:00 藤木聡 (西都原考古博物館)
- **2月8日(日)** 講演会と伊形花笠踊り公演
「災害の記憶と記録、我々のミライ」
13:30~14:30 山内利秋 (九州保健福祉大学)
「伊形花笠踊り公演」
14:30~15:00 伊形花笠踊り保存会と伊形小6年生
- **2月22日(日)** 水損資料修復ワークショップ
「紙資料と写真の修復」
① 10:00~11:30 ② 13:30~15:30 吉原大志 (歴史資料ネットワーク)



※申し込みの必要なイベントがあります。詳細は博物館ホームページをご確認ください。

学校向け貸し出し料

博物館では、学校の授業で利用できる資料を貸し出しています。貸出資料のリストは博物館ホームページに掲載しています。貸出中の場合もありますので、借用を希望する場合には、事前に連絡をしてください。



観覧時間・休館日のお知らせ

観覧時間 **9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)**
 休館日 **毎週火曜日 (火曜日が祝日の場合は翌日)**
 ★12月28日~1月4日は年末年始休館
 ★2月23日~26日は館内メンテナンスのため休館

博物館のホームページにはイベント情報、寄せられた質問とその答え、過去の森の通信、職員ブログなどの情報が盛りだくさんです。ぜひアクセスしてみてください。

宮崎県総合博物館

特別展 観覧無料

文化財を守り伝える力

大災害と文化財レスキュー

博物館では、地域の文化財を後世に守り伝えていくための資料保存の活動を行っています。しかし、大災害が起きた時の対応は、なかなかの難題です。2011年3月に起こった東日本大震災では、多くの文化財が被災しましたが、様々な人々の力によって救出され、修復作業が行われてきました。

この展覧会では、岩手県内で被災し、修復された被災資料約1000点を展示します。文化財を守り伝えるための大切さと、今後の災害への備えについて、考える機会としていただければ幸いです。(永友)

2015

1/10(土) → 2/22(日)

休館日
1月13・20・27日
2月3・10・12・17日

観覧時間
午前9時から午後5時まで
(入場は午後4時30分まで)

主催 宮崎県総合博物館 津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会



背景写真: 奇跡の一本松(陸前高田市) 野呂智人氏撮影

講座紹介

フクトが浦海岸と権現崎の植物観察

秋の野外講座「フクトが浦海岸と権現崎の植物観察」を行いました。初夏にクサフグの産卵で有名な日向市幸脇の「フクトが浦海岸」と県の天然記念物である「権現崎の照葉樹林」は、日豊海岸国定公園の最南端にあります。柱状節理が見られる多くの岩礁で出来たリアス式海岸と照葉樹林が隣り合う、「海」と「森」の見事なコラボレーションが味わえる絶景ポイントです。小さな子どもさんを含む家族連れからお年寄りまで幅広い年齢層の参加者とともに、澄みきった空と海の青色を背景に、岩場と照葉樹林の散策を行いました。海岸付近では、キク科のアセトウナなどの海岸性植物が見られ、原生の森では、落ちていたシイの実を拾うなど、秋の自然を満喫した講座となりました。(岩切)



高屋神社神楽

宮崎の歴史情報

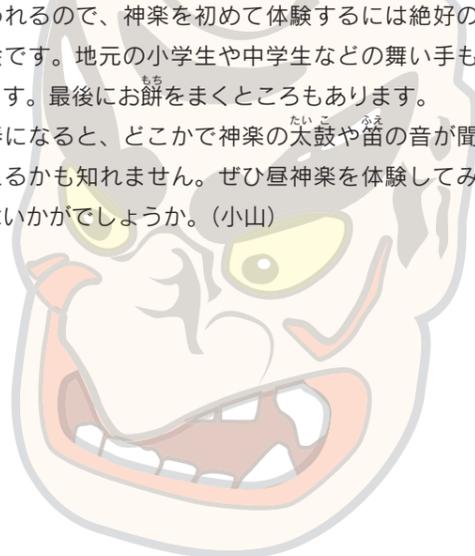
宮崎の昼(作)神楽

神楽といえば、高千穂町や椎葉村の夜神楽が有名です。

夜神楽は、夕方から始まり次の日の朝(または昼)まで夜通し舞われる神楽のことですが、宮崎には、その他に、昼間に舞われる神楽もあります。この神楽を昼神楽または作神楽と呼んでいます。

年が明けた1月から、宮崎市内や日南市内などでは、神社の境内などで作物の豊作や、子孫の繁栄、家族の健康を神様に祈る神楽が舞われます。港町では、大漁を祈る漁神楽もあります。昼間に舞われるので、神楽を初めて体験するには絶好の機会です。地元の小中学生や中学生などの舞い手もいます。最後にお餅をまくところもあります。

春になると、どこかで神楽の太鼓や笛の音が聞こえるかも知れません。ぜひ昼神楽を体験してみたいかがでしょうか。(小山)



自然史展示室紹介

大地の芸術品

鉱物の美しい色や形は、自然がつくりあげた、芸術品と言えます。自然金やオパールなど決まった形をつくりにくいものもありますが、多くの鉱物は、その構成粒子が規則的に配列することで、鉱物ごとに特徴のある決まった形をつくりまします。これを結晶といいます。たとえば水晶やエメラルドの結晶は六角柱です。

「大地の芸術品」コーナーでは、3月に展示ブースの改修を行い、大型の鉱物標本を展示できるガラスケースを新設しました。現在は、藍晶石とダンブリ石という鉱物を展示しています。どちらも柱状の鉱物ですが、水晶やエメラルドとは結晶の形が異なりますので、ぜひ実際に形を見比べてみてください。(濱田)



収蔵資料紹介



森永家資料(小林市)

森永家資料は、森永貞右衛門(1879～1953)が残した資料群です。貞右衛門は、郵便局や鉄道会社に勤めた後、事業を興し、大正11年(1922)に西諸貯蓄銀行を創立しました。その後、宮崎銀行の前身である日向興業銀行の頭取にもなりました。また、日本基督教団小林教会や小林幼稚園を設立するなど文化事業にも尽力した人物です。

貞右衛門の長男は、大蔵事務次官や日本銀行総裁を歴任した森永貞一郎(1910～1986)です。貞一郎は、本県出身の偉人をまとめた「みやざきの101人」のひとり選ばれています。

この森永家資料には、石井十次からの書状、貞一郎の妻の父親である若槻礼次郎からの書状、教会の活動に関する資料、日記などがあります。日記を読むと、送受した書状の宛名・差出人の名前が書かれており、貞右衛門がどのような人物と交流していたのかがよくわかります。(佐藤)

利用者からの問い合わせ



動物部門

最近、感染症(特にSFTSウイルスによる重症熱性血小板減少症候群)を媒介する厄介者として話題になっているマダニ。博物館にもマダニに関する問合せが相次いでいます。一言にマダニといっても、日本には命名されているだけでも47種のマダニが生息しています。マダニは、8本脚からなる節足動物で、昆虫ではなくクモやサソリなどと近縁の生きものです。自然界では、植物の葉っぱの先などに身を隠して待ち構え、それに触れたイノシシやシカなどの野生動物にくっつき吸血します。

昔から草むらや野山に生息しており、生態系の一員でもあります。厄介者だからといって、すべてを駆除することはできません。草むらや野山に入る私たちが、マダニに吸血されないようにしっかり工夫していく必要があります。(外山)



タカサゴキララマダニ